

## ソフトバンクIDC、データセンター内のセキュリティ強化に貢献するAxis アナログからデジタルへの移行で、効率的な映像監視システムの運用を実現



企業名：  
ソフトバンクIDC株式会社

所在地：  
東京都新宿区

業種：  
情報通信

アプリケーション：  
監視

パートナー：  
株式会社トリワークス  
ネットワンシステムズ株式会社

### 課題：映像監視システムの効率的運用

全国8ヶ所にデータセンターを展開しているソフトバンクIDC株式会社。大規模・大容量バックボーン基盤による最高水準の環境は、多くの企業のビジネスを支えています。

ソフトバンクIDCでは、東京新宿データセンターに、新たなカメラシステムの導入を検討していました。これまでのアナログカメラとテープデッキによるカメラシステムでは、テープ交換・録画操作、録画テープの検索の手間、テープ保管スペースの確保といった課題を抱えていました。また、将来的な、システム拡張に備え、柔軟に対応できるシステムの構築が求められていました。

### 解決策：IPネットワークを活用した映像監視システム

システム選定当初より、ネットワークカメラと映像管理ソフトウェアで構成されるIPネットワークを活用したシステム導入を検討していました。カメラに関しては、設置の際の電源や配線に関わるコストを考えPoE対応が条件となりました。さらに、カメラによっては、対応する管理ソフトウェアが限定されることもあり、対応ソフトウェアの自由度も重要視されました。

調査を進める中で、Axisのネットワークカメラが全ての条件を満たしていることが分かってきました。導入に当

たり、各社より提案を受ける中で、いくつかのベンダーがAxisのネットワークカメラを推奨。Axisネットワークカメラの評価の高さを確信しました。対応管理ソフトウェアは、トリワークス株式会社のネットワークカメラ管理用ソフトウェア「ArobaView®」を選定、最終的に、ネットワンシステムズ株式会社が導入を担当し、1ヶ月で設置を終了しました。

現在、データセンター内に60台のAXIS 210Aネットワークカメラが導入され、稼動しています。

### 効果：運用が楽になり、録画映像の活用法も拡大

ネットワークカメラシステムでは、テープ交換等の手間が解消、そして保管スペースも不要となりました。また、画面も見やすく操作も簡単になり、運用が非常に楽になったと高評価を得ています。また、録画した映像の検索・再生が簡単にできるため、データの活用法が広がっています。例えば、拾得物があった際に、誰が忘れていったかを手軽に映像で検索するといった使い方もしています。データセンター内入館者の動向の把握などにも、効果を発揮しています。

“カメラシステム運用の手間が劇的に軽減され、表示も見やすく、操作も簡単になりました。さらに、録画した映像の活用法も広がりました。”

(ソフトバンクIDC 技術本部 施設部 佐々木部長)

### 1ヶ月で全ての導入・設置が完了

ソフトバンクIDCでは、カメラシステムの選定に関して、セキュリティ機器ベンダー、監視カメラを扱っている電器メーカー、SIベンダーなど、様々な企業と話をしながら慎重に検討を進めました。

導入台数が多数になるため、高機能・高品質でありながら、コストパフォーマンスの高いカメラが求められました。さらに、アナログカメラで必要な同軸ケーブルの配線スペースを新たに確保することは困難であり、IPネットワークを活用することが前提となりました。また、電源に関するコストを考慮し、PoE対応ネットワークカメラの選定を開始、最終的に、カメラはAXIS 210Aネットワークカメラ、ネットワークカメラ管理用ソフトウェアはトリワークスの「ArobaView®」に決定。Axisネットワークカメラのシステム親和性と、ネットワンシステムズによる高いネットワークシステム構築技術により、1ヶ月という短い期間で、導入が完了しました。

### 操作も簡単、動体検知録画でハードディスク容量も安心

従来のアナログカメラによるシステムでは、録画データは8台のデッキで行っており、毎日、それぞれのデッキのテープ交換をしなければならず、そのたびに、巻き戻しや録画操作、保管といった手間がかかっていました。また、保管テープは膨大な数になり、保管してあるキャビネットから必要なテープを探し出すことは、なかなか大変な作業でもありました。さらに、アナログカメラシステム機器の操作は専門性や習熟が要求され、パソコン操作に慣れている担当者にとっては、扱いづらいのもであったといえます。

一方、ネットワークカメラによるIP映像監視システムでは、ハードディスク録画のため、テープ交換等は一切不要になっています。60台に及ぶAxisカメラ映像は、トリワークスの「ArobaView®」によって16分割されてモニターに表示されています。そして、クリックするだけで、見たい箇所を拡大表示させたり、表示される画面の数を変更したり、表示のさせ方を変えたり、と操作も非常に簡単。クリック操作によってパソコンを扱う感覚で普通に使えるカメラシステムになっています。なお、録画は、カメラ本体の動体検知機能を活用し、撮影範囲での動体を感知したときだけ録画する仕組みなので、ハードディスク容量を圧迫することはありません。また、見たい映像の検索・再生も簡単にできます。

### 全データセンターの一元監視、お客様サービスへの活用へ

「データセンターのネットワークは、統合監視ルームで一元監視しています。監視カメラについても同様に、全国のデータセンターにネットワークカメラシステムを導入し、いつでも、どこからでも、サーバフロアの様子を確認できる一元監視体制を構築したいと考えています。」(ソフトバンクIDC 佐々木部長)

現在の監視システムは、サイトごとの監視が前提となっているシステムのため、他拠点のデータセンターのサーバフロアを確認することができません。これを解決するためにも、今後は、監視カメラの一元管理システムの導入が必要とされています。

現状は、各データセンターごとに様々なカメラシステムが導入されており、また導入年数も異なるため、順次ネットワークカメラによるシステムへの移行を計画しています。そしていずれは、顔認証やRFIDなどの技術を活かして、アクセスコントロールシステムと監視カメラシステムの統合も視野に入れていきます。

「データセンターを利用されているお客様から、サーバフロアの様子をチェックできるようにしてほしいという要望が寄せられています。今後は、より充実したサービスの一環としてこのような要望にも応えていきたいと考えています。」(ソフトバンクIDC 佐々木部長)

Axisネットワークカメラシステムは、映像監視から、お客様サービスまで、データセンターの安定性・安全性のサポートはもとより、高信頼サービス提供へと、用途拡大が期待されています。

\*本資料は、2008年8月に制作されました。なお、2009年4月1日、ソフトバンクIDCは、IDCフロンティアに社名変更しました。



SoftBank IDC

ソフトバンクIDC株式会社  
http://www.sbidc.jp/

robaView

株式会社トリワークス  
http://www.arobaview.com/

Net One Systems

ネットワンシステムズ株式会社  
http://www.netone.co.jp/